

(新著紹介) ○『實驗遺傳學』 ○『ダーキンの進化論』 ○『昆蟲學雜誌』第二號 ○『水産學會報』第一號

五四

Urwelt." (五十錢)。

(2) DRIESCH, H., 14—"Problem of Individuality."

●理學博士『實驗遺傳學』(再版) 初版より紙数が二割

方増した。變異に關する事柄が最も多く書き加へてある。圖もルコウサウの雜種の美しい三色版を初めとして餘程増した。書物の體裁もすつと良くなつて居る。初版は某専門學校で教科書に用ゐたといふ事である。ローマ字といふ世間の人々に讀み悪い文字で書かれたに拘らず、評判が良くて賣れるといふ事は、著者の技倆と此書の出來榮を示す第一の證據であると思ふ。(定價一圓五十錢、郵税八錢。本郷區曙町十一番地、日本のローマ字社發行。)(駒井 卓)

●理學士『ダーキンの進化論』 予輩の寺尾氏の文章に

初めて接したるは、矢野理學士が、『博物の友』を經營し居りし頃に始まる。

其際、該誌上に表はれたる、寺尾氏の『ビーグル』號世界周遊地の翻譯を讀みて、當時は學生たりし執筆者の、異彩を放てる才筆に驚嘆せざる能はざりしを記憶す。爾來幾年、其當時はダーキンも『ビーグル』號時代のものを読み耽りたる氏も、最早立派なる動物學者に向上すれば、『周遊記』も共に歩を進めて、進化論とならざるを得ず。而して其間に、氏の蘊蓄は益深く、文彩は愈燦爛たるを加へて、其腦底に秩序正しく積み上げたる材料を巧みに消化按排して此小冊子を作り上げたる手際甚だ鮮かに、自ら進化論を辯護すべき立場にありて、兎角に其渦中に卷込まれ易きを避け、終始、冷靜なる第三者として進化論を批判紹介する態度と方針とを失はず。面も注意して、六ヶ敷學名や英名の生物を引合に出すを慎みたれば、苟くも小學程度の普通教育を受けたらん人々には、誰人にも讀み得べく、又讀ましめて弊害を醸す憂もなく、合點せしめ得ざる點もなし。それに、定價が、『アカギ叢書』の第十編として、僅に十錢に過ぎざるものなりといへば、如何なる階級、如何なる生活の人にも求め得ざる程のものにあらず、すべての點に於て、國民的なる邦文の進化論の本といはゞ、予輩は先づ此書を薦めたとと思ふ。

本書、ポケット型八十六頁の小冊子、進化論に對する證據より説き始め

て、ダーキン説の主要に及ぼし、終りに、ダーキンの小傳を副へて、此傳人の事業と性格とも明かにせるものなり。著者の序言によれば、此原稿は、筆記者に口授して清書せしめしものゝ如きが、成程、地は寺尾氏獨特の文章にても、其間に講演口調の見ゆるは面白し。但し單に講演として見るも、斯の如く明快整然たる演説は少かるべし。(六月、麹町三番町五十、赤城書店發行。定價十錢。郵税二錢。)(永澤六郎)

●『昆蟲學雜誌』第二號 第一號に比すれば驚くべき程改

善せられたり。これならば、此誌第一號に對する予輩の妄評は、最早其全部を撤回するも差支なし。それ丈に又、編輯に干與せられたる諸君の努力に對し、深く敬意を表し置かざる可からず。而して東京昆蟲學會雜誌發刊計畫の小頓挫を來せる今日、此誌の今後の發展に對し、多大の希望を繋ぐの必要あるを感ぜざるを得ず。實は、東京方雜誌發刊の暫時延引し居るは、主として財政上の關係らしきが、失禮ながら此雜誌も、現在の會員と、現在の定價にては、とても引合ふものとは思はれず。其經濟上の補填は、想像するに、經營者諸君の肩に落ち居る事ならんが、第一等國を以て自負し居る邦の、二つともなき昆蟲専門雜誌が、獨立維持する丈の會員を得ずといふは情なき次第、其點に於て、此雜誌には關係なき予輩と雖、昆蟲同好者諸氏の、一層有力・有効なる後援を希望し置かざる可からず。(菊判九十六頁。圖版一枚附。論說五篇、雜錄二篇。定價二十錢。五月、京都愛宕郡一乘寺、野平安藝雄方、日本昆蟲學會發行。)(永澤六郎)

●『水産學會報』第一號 『會報』などいへば、其内容は、

兎角に廣告的の文字のみ多く、華のみありて實の少きものに、我も人も早合點する様に慣れ來れり。其『會報』に此誌の如く、内容の充實せるものありとは、誰人も意外とする所なるべし。いはゞ此雜誌は、善き方の意味に於て名實相伴はず、而も其背馳する程度の大なる程、斯學の進歩に貢獻する事は大なるべし。執筆者はすべて會の組織者たる駒場の水産科關係者にして、内容をいへば、論說三、講話一、抄錄五、雜報六、材料は、素人相手